

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

京丹波

No.36
2008年
10月15日発行

カヌーの魅力
を満喫



決算

特集

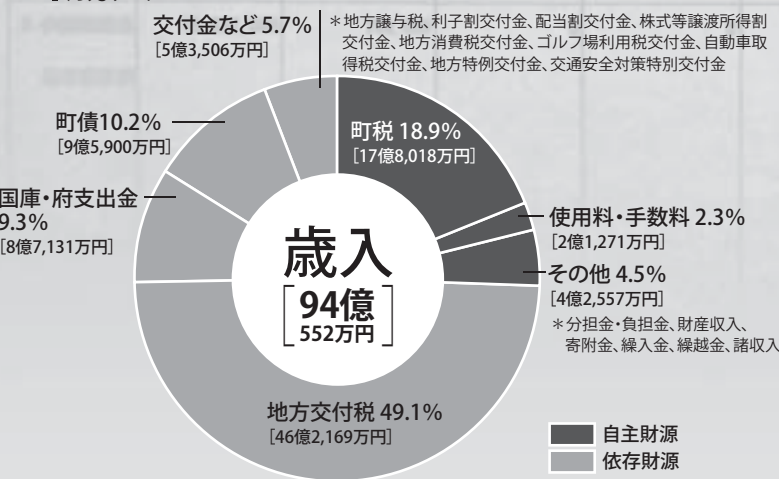
平成19年度

決算

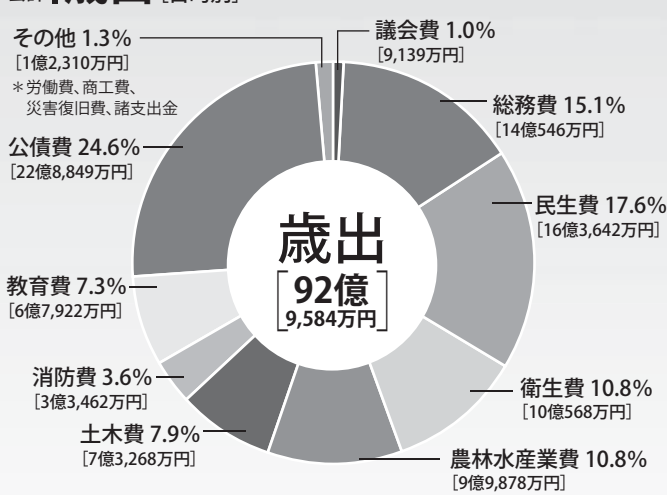
特集

監査委員の決算審査を経て、9月の議会定例会で、平成19年度一般会計と特別会計の決算が認定されました。歳出決算額は、一般会計が92億9,584万円(1万円未満四捨五入、以下同じ)、特別会計などが94億8,476万円(財産区会計除く、以下同じ)になりました。

一般会計 歳入



一般会計 歳出



■用語解説
【経常収支比率】財政構造の弾力性を示す指標。人件費や公債費など毎年度経常的に支出する経費に対して、町税や地方交付税など毎年度経常的に収入できる一般財源が、どの程度使われたかを表す比率。
【実質公債費比率】公債費(借入金)による財政負担の程度を示すもので、従来の起債制限比率に反映されていなかった公営企業の公債費への一般会計繰出金などの公債費類似経費を算入するもの。18%を越えると許可団体、25%を越えると起債制限団体となる。

税は四十六億二、二六九万円、前年度に比べ約二、九〇〇万円の減。他にも、国・府支出金が約二億円の減。住民税の税源移譲により地方譲与税が約一億一、五〇〇万円の減、恒久的減税の廃止に伴い地方特例交付金が約二、二〇〇万円の減となりました。国が進める財政構造改革により、地方交付税や国・府支出金は今後も減少傾向にあるため、国や府への依存率が高い本町にとって、歳入の確保はますます厳しさを増すことが予想されます。

また、事業の精査や経常経費の縮減などにより歳出を抑えた結果、借入金は昨年度に比べ四億二、二〇〇万円の減となり、歳入総額で見ると約十二億九、〇〇〇万円減の決算となりました。

本町では両比率ともに高い数値を示しており、依然として硬直した財政構造になっています。今後ますます歳入の確保が厳しい状況になる中、京丹波町総合計画の円滑な推進を図るため、行政改革大綱に基づいた経常的な経費の節減はもとより、受益と負担の公平性が確保できる適正な財政運営に努めていかなければなりません。

平成十九年度一般会計歳出の主なものは、平成十二年開通を目指した山陰本線(京都・園部間)複線化事業(七、一七八万円)、四十二組織が取り組む農地・水・環境保全向上対策事業(八六九万円)、船井郡衛生管理組合への分担金・手数料(三億一、五九七万円)、京丹波町総合計画の策定(二、三二二万円)で、他にも住民自治組織によるまちづくり推進委員会や公共料金等審議会、特別職報酬等審議会、行政改革推進委員会などに係る経費を支出しました。

このほかページのとおり支出しました。

区分	金額	支出済額		翌年度繰越額	不用額	備考
		円	円			
19 負担金補助金及び交付金	12,000	10,720	0	1,280	戸籍住民登録件数人登録事務費	10,720
1 報酬	215,000	215,000	0	0	高砂管理組合報酬	215,000
9 旅費	19,000	2,130	0	16,870	普通旅費	2,130
11 燃料費	20,000	20,000	0	0	燃料品費	20,000
14 使用料及び賃借料	1,000	1,000	0	0	電話通信料	1,000
19 負担金補助金及び交付金	28,000	27,500	0	500	府県教育委員会関係会費等	27,500

歳入

には、町税収入など町が自らの力で収入できるお金(自主財源)と、国や府から交付されたり、割り当てられたりするお金(依存財源)があります。グラフのとおり、自主財源は歳入全体の二五・七%で、残りの七四・三%は国・府支出金(負担・補助・委託金)や町債(借入金)などに頼っている状況です。

自主財源の柱である町税収入は、十七億八、〇一八万円で、収入できなかった未徴収額が二億七、五九五万円、不納欠損額が三八五万円。この対策のため、町税等徴収率向上対策委員会での取り組みや夜間徴収窓口の開設、差し押さえ不動産の公売などにより納入率を上げるとともに、京都府と共同で滞納税金の徴収(滞納徴収の共同化)に努め、徴収の確保につなげていきます。

一方、依存財源の中で最も多くを占める地方交付

歳出

総額は、九十二億九、五八四万円。歳入から歳出を差し引き、さらに平成二十年度へ繰り越した事業費一、九八六万円を差し引いた実質収支額は、八、九八二万円の黒字になりました。

一方、財政の弾力性を判断する指標である※経常収支比率は九二・六%で、前年度に比べ〇・七ポイント増加。この比率の標準的な数値は七〇―八〇%で、比率が高くなるほど自由に使えるお金が少なくなり、財政運営が厳しい状況を示します。

また、公営企業(特別会計を含む)の借入金への繰出金などを含めた※実質公債費比率は二〇・三%で、前年度に比べ〇・五ポイントの減少。この比率が十八%を超えると地方債(借入金)発行に許可が必要となり、二十五%を超えると町が行う事業で発行できなくなります。



今月の表紙

8月30日、「2008京丹波町カヌーフェスティバル」が由良川のB&Gカヌー艇庫(坂原)周辺で開催され、カヌー教室の参加者ら約80人が参加。この催しでは、カヌーを使ったビンゴ大会や立ち漕ぎパン食い競争、牛乳パックで組み立てたカヌー艇を使ったりレーなどが行われ、参加者はカヌーの楽しさを満喫しました。

京丹波 No.36 CONTENTS

- 2 **決算** [シリーズ] まちづくりスクエア
―「住民自治組織によるまちづくり」に向けて
- 8
- 10 **地域活性化への架け橋**
―「京都縦貫道・丹波綾部道路 綾部安国寺IC～京丹波わちIC」が開通
- 13 **Dr's Message いきいき健康術**
- 14 **フラッシュ TOWN NEWS 2008**
 - 源氏物語を後世に伝えるために
―源氏物語千年紀講演会
 - 既存の地域振興会が意見交換
―住民自治組織によるまちづくり懇談会
 - 子育てで大切なのは「褒める」気持ち
―きらりセミナー☆Ⅱ
 - 楽しみながらグラウンドの草引きを
―第3回北部ナイターであそぼ会
 - 人との出会いや会話が人生をかえる
―子育て講演会
 - 百歳の長寿をお祝いして
―敬老祝賀訪問
 - 竹野小学校のホームページが京都府代表に決定
―J-KIDS大賞2008
 - 毎月1日は「あいさつ運動の日」
―京丹波町青少年育成協会が「あいさつ運動」を実施
 - 質美地域の新たな活性化拠点「四季の里」
―旧質美保育所利活用開始式

農道安栖里坂原線道路改良工事	353万円
農業集落道長瀬線橋りょう・道路工事負担金	1,115万円
南丹地区農用地総合整備事業負担金	9,828万円
小規模老朽ため池整備工事(升谷、洪水吐工)	404万円
下水道事業特別会計への繰出金(農業集落排水)	1億8,522万円
その他農地保全などに関する経費(土地改良区運営補助など)	5,298万円
山村開発センターの管理	732万円
農村情報施設管理費(職員給与など含む)	1億43万円
山村振興対策事業(町有林整備など)	98万円
林業総務費(職員給与や林業振興会負担金など)	1,771万円
松くい虫防除委託	94万円
公有林整備	1,765万円
緑の公共事業(間伐76haなど)	1,418万円
森林整備地域活動支援事業	1,514万円
生産森林組合運営推進助成	282万円
林道峰線開設(和知地区才原・広瀬)	7,609万円
林道の維持管理	449万円
有害鳥獣捕獲事業	1,860万円
その他林業振興に関する経費(緑の担い手育成事業など)	3,430万円
わか林業センターの運営管理	278万円
内水面漁業振興対策事業補助(和知・由良川漁協への補助)	292万円

商工費 **9,735万円**

商工総務費(職員給与など)	1,408万円
商工会小規模事業経営支援事業補助	2,836万円
中小企業信用保証料補助	217万円
商業活性化事業補助	120万円
その他の商工振興に関する経費(消費生活グループ活動補助など)	238万円
道の駅「和」・山野草の森・カヌークラブハウス・アグリパークわちなどの管理委託	3,356万円
質志鐘乳洞公園管理委託	1,246万円
その他観光振興に関する経費(京都府観光連盟など各機関への負担金など)	314万円

下水道事業特別会計への繰出金(浄化槽市町村整備推進)	3,261万円
その他環境衛生に関する経費(狂犬病予防注射や水質検査委託など)	304万円
経営診断業務委託	93万円
南丹病院負担金	1,719万円
瑞穂病院会計運営補助(出資金・利子含む)	1億7,046万円
国民健康保険特別会計への繰出金(直診勘定分)	5,600万円
その他診療所に関する経費(事務経費など)	5万円
保健センターの管理	1,466万円
船井郡衛生管理組合分担金	2億7,784万円
ごみ処理手数料	3,813万円
生ごみたい肥化容器購入助成	48万円
資源ごみ集団収集助成	64万円
その他ごみ処理対策に関する経費	150万円
簡易水道事業特別会計への繰出金	2億4,026万円

労働費 **133万円**

内職友の会運営補助など	133万円
-------------	-------

農林水産業費 **9億9,878万円**

農業委員会の運営	649万円
農業総務費(職員給与など)	8,000万円
マスターズハウス管理運営委託	1,040万円
丹波食彩の工房管理運営委託	1,500万円
瑞穂町農業公社・丹波ふるさと振興公社運営補助	1,721万円
農業機械導入補助	715万円
中山間地域直接支払事業補助	1億1,344万円
京の米産地づくり事業補助	69万円
農地・水・環境保全向上対策補助	869万円
水田農業構造改革対策助成事業(特産物作付け奨励、集落営農推進、水稲病害虫防除)	1,873万円
有害鳥獣防除施設設置事業補助(金網、電気柵など)	698万円
その他農業振興に関する経費(農業施設整備補助など)	2,365万円
環境保全型農業支援事業(土づくり推進、牛ふんたい肥散布など)	258万円
農業機械導入補助(たい肥ストックヤードなど)	876万円
その他畜産業に関する経費(元気な地域づくり事業補助など)	746万円

松原町長に平成19年度決算の審査意見書を提出する人見監査委員(役場町長室・蒲生)

一般会計[主なもの]

こう使った **92億円**

民生費 **16億3,642万円**

社会福祉総務費	2億3,515万円
(職員給与や在宅介護支援センター運営、民生児童委員の活動補助など)	
国民健康保険特別会計への繰出金(事業勘定分)	9,674万円
和知高齢者コミュニティセンター管理運営委託	70万円
和知高齢者コミュニティセンター空調設備工事	110万円
共同作業所運営委託	1,694万円
重度心身障がい者通院通所支援事業委託	853万円
障がい者共同作業所入所訓練事業	4,423万円
重度心身障がい者老人健康管理事業給付費	3,292万円
心身障がい者医療給付費	4,324万円
自立支援医療給付扶助費	1,064万円
障がい者自立支援給付費	1億2,721万円
その他障がい福祉に関する経費	3,957万円
(日常生活用具の給付など)	
外出支援・食の自立支援事業委託	2,027万円
生きがい活動支援事業委託	734万円
シルバー人材センター運営補助	700万円
老人クラブ連合会活動補助	438万円
後期高齢者医療広域連合分賦金	740万円
後期高齢者医療制度対応システム負担金	234万円
老人医療給付費	2,983万円
老人ホーム措置費	946万円
老人保健特別会計への繰出金	1億8,268万円
介護保険特別会計への繰出金	2億405万円
その他老人福祉に関する経費(長寿者報償など)	1,264万円
国民年金事務に関する経費	33万円
すこやか祝金	875万円
心身障がい児通園事業委託	508万円
乳幼児医療・すこやか子育て医療給付費	4,526万円
児童手当給付費	1億625万円
その他児童福祉に関する経費	949万円
(チャイルドシート購入助成など)	
母子父子福祉に関する経費(母子医療給付費など)	916万円
保育所の運営管理(職員給与など含む)	3億674万円
(仮称)瑞穂保育所新築検討委員会に係る資料作成業務	100万円

衛生費 **10億568万円**

保健衛生総務費(職員給与など)	7,284万円
検査検診委託	4,329万円
予防接種業務委託	1,785万円
食生活改善推進事業委託	65万円
不妊治療給付事業補助	23万円
その他保健・予防に関する経費(医師報酬など)	526万円
合併浄化槽設置補助金	1,178万円

議会費 **9,139万円**

議会運営に関する経費(議員報酬や職員給与など含む)	9,139万円
---------------------------	---------

総務費 **14億546万円**

特別職報酬等審議会の経費	17万円
行政改革推進委員会の経費	25万円
公共料金等審議会の経費	22万円
一般管理に関する経費(職員給与や区長会の運営補助、土地開発公社など各機関への負担金など)	4億3,817万円
広報京丹波(お知らせ版含む)の発行など	565万円
例規集サポートシステム委託料	600万円
その他文書広報に関する経費	98万円
財政管理・会計管理に関する経費	189万円
財産管理に関する経費(町有財産管理、基金積立金など)	2億6,204万円
総合計画の策定	231万円
山陰本線複線化事業補助金	7,178万円
京都中部地区広域市町村圏協議会など各機関への負担金	56万円
その他総合企画に関する経費	150万円
支所の管理に関する経費(職員給与など含む)	2億3,733万円
公平委員会に関する経費	2万円
グリーンランドみずほ管理運営委託料	2,500万円
グリーンランドみずほ改修工事(冷暖房設備など)	269万円
和知駅構内使用料	72万円
街灯設置補助金・防犯協会負担金など	256万円
交通対策費(交通指導員運営経費、交通安全協会運営補助など)	183万円
町営バス運行事業会計への繰出金	4,593万円
自治振興補助金	850万円
コミュニティー助成事業補助金	250万円
地域活動助成調査事業	74万円
(住民自治組織によるまちづくり検討委員会など)	
行政情報システムの管理など	4,627万円
情報化推進に関する経費(地域イントラネット・インターネット運営など)	3,459万円
有線テレビ(CATV)整備事業(利活用調査委託業務)	1,654万円
計画書の印刷(男女共同参画・人権教育など)	149万円
国際交流協会への補助	300万円
生涯学習推進に関する経費(人権政策の推進など)	236万円
税務に関する経費(職員給与など含む)	1億973万円
戸籍住民基本台帳管理に関する経費(職員給与など含む)	3,796万円
選挙に関する経費(府議選・参議院選)	3,264万円
各種統計調査に関する経費	108万円
監査委員に関する経費	45万円

一般会計[主なもの]
こう使った 92億円

土木費 7億3,268万円

土木総務費……………8,807万円
(職員給与や各建設促進同盟会への負担金など)
道路台帳整備委託……………98万円
道路の維持管理に関する経費……………2,166万円
(道路修繕、交通安全施設整備、除雪作業など)
道路改良工事……………2億3,677万円
その他道路改良に関する経費……………3,844万円
(職員給与や測量設計監理など)
河川総務費(河川維持管理業務委託など)……………592万円
河川改良工事(大倉谷川河川改良)……………1,486万円
農業基盤整備事業関連河川改修負担金……………368万円
ダム関連対策に関する経費……………2,678万円
都市計画に関する経費(職員給与など)……………399万円
都市公園整備(須知)に関する経費……………4,050万円
下水道事業特別会計への繰出金(公共下水道)……………2億1,835万円
町営住宅管理に関する経費……………1,199万円
(職員給与や設備保守点検管理など)
町営住宅建設工事(瑞穂地区三ノ宮団地道路舗装など)……………2,000万円
その他住宅建設に関する経費……………69万円

消防費 3億3,462万円

京都中部広域消防組合負担金……………2億2,951万円
消防団の運営、消防施設の維持管理に関する経費……………7,938万円
防火水槽設置工事(5基)……………1,812万円
その他消防施設などの改修に関する経費……………133万円
防災備蓄備品(災害時などに備えた緊急備蓄物資の購入)……………99万円
その他防災対策に関する経費(防災無線電波負担金など)……………498万円
災害対策に関する経費……………31万円

教育費 6億7,922万円

教育総務費(職員給与や教育委員報酬など)……………1億7,250万円
育英資金給付事業特別会計への繰出金……………74万円
下山小学校耐震設計業務委託……………313万円
丹波ひかり小学校設備改修工事……………69万円
三ノ宮小学校空調設備設置工事……………67万円
その他小学校の管理に関する経費……………1億1,548万円
(職員給与など含む)
小学校の教育振興に関する経費……………3,772万円
(教材、通学バス補助金など)
蒲生野中学校設備改修工事……………262万円
その他中学校の管理に関する経費(職員給与など含む)……………4,839万円
中学校の教育振興に関する経費……………5,455万円
(外国語指導助手報酬、教材、通学バス補助金など)
幼稚園の管理運営に関する経費(職員給与など含む)……………6,423万円
婦人会活動推進補助……………120万円
町文化協会活動推進補助……………23万円
伝統芸能等保存活動補助……………23万円
青少年育成協会への補助……………50万円
子ども会育成補助……………136万円
人権教育推進協議会への補助……………100万円
その他社会教育総務費(社会教育委員報酬など)……………574万円
公民館活動に関する経費……………3,360万円
文化財保護に関する経費……………250万円
体育協会への補助……………400万円
その他社会体育に関する経費(体育指導委員活動など)……………278万円
体育施設の維持管理に関する経費……………1,329万円
学校給食費(職員給与など含む)……………1億1,207万円

特別会計決算の概要

国民健康保険事業

事業勘定分の歳入は十八億六、八
九六万円、そのうち国民健康保険
税収入は四億三、九七二万円(三・
五%)でした。歳出は十八億六、六五
六万円、主なものは保険給付費十
一億九、四六四万円、人間ドック助成
などの保健事業として一、六八三万
円となりました。
質美診療所分の歳入は二、二〇七
万円、歳出は二、〇二三万円です。

老人保健

歳入は二十億一、八一八万円、歳
出は二十億一、七三七万円でした。
歳出の主なものは、全体の約九八%
を占める医療給付費の十九億七、五
四二万円となりました。

介護保険事業

事業勘定の歳入は十五億九、六二九万円
で、そのうち保険料収入が二億七、一七六万
円(二七%)でした。歳出は十五億六、七三四
万円、そのうち保険給付費は十四億七、
〇九四万円となりました。
サービス事業勘定の歳入は六四七万円
で、歳出は五九六万円。歳出の主なものは、
介護予防サービス計画作成委託の五五三
万円となりました。

水道事業

歳入は十六億二、九八六万円、そのう
ち水道使用料は四億八、四七八万円(二九・
七%)でした。歳出は十六億五七二万円、
そのうち丹波・瑞穂地区統合簡易水道整備
事業に六億一、一四五万円、和知地区簡易水
道統合整備事業に二億五、二五五万円とな
りました。

下水道事業

歳入は十億七、七八四万円、歳出は十
億七、七七六万円でした。歳出の主なものは、
農業集落排水費に九、〇五五万円、公共下
水道費に一億五、六五四万円、集合処理区
域以外の区域に町が浄化槽を設置する浄
化槽市町村整備推進施設費に八、六三二万
円となりました。

土地取得

歳入は四三三万円、歳出は四二二万円でした。

育英資金給付事業

歳入は一五七万円、歳出は二五六万円
でした。歳出の主なものは、大学生七人に二一
七万円、高校生四人に三〇万円の奨学金を
支出しました。

町営バス運行事業

歳入は九、八一〇万円、そのうち運賃収
入などの事業収入は三、五六二万円(三六・
三%)でした。歳出は九、七七二万円、主な
ものは、中型バス購入(六十一人乗り、ワンス
トップ)に、五八六万円を支出しました。

瑞穂病院

収益的収支(消費税抜き)については、収
入額が七億五、六二〇万円、支出額が八億
一、〇一〇万円、収支差引五、三九〇万円
の損失となりました。
収入のうち、医業収益は六億五六四万
円。看護師の確保や訪問リハビリの開始な
どにより、医業収益は前年度と比べて四、四
六七万円の増収となりました。一方、支出の
うち、医業費用は七億五、七八七万円です。

平成十九年度の入院患者数は延べ一
三、三六八人(前年度比二・七ポイントの
減)、外来患者は延べ三万三、六三〇人(前
年度比五・六ポイントの減)でした。

会計別歳出決算額

会計名	本年度
一般会計	92億9,584万円
特別会計・企業会計	94億8,476万円
国民健康保険事業(事業勘定)	18億6,656万円
国民健康保険事業(質美診療所)	2,013万円
国民健康保険事業(和知診療所)	3億4,502万円
国民健康保険事業(和知歯科)	6,911万円
老人保健	20億1,737万円
介護保険事業(事業勘定)	15億6,734万円
介護保険事業(サービス勘定)	596万円
水道事業	16億571万円
下水道事業	10億7,776万円
土地取得	42万円
育英資金給付事業	156万円
町営バス運行事業	9,772万円
瑞穂病院	8億1,010万円



平成19年度決算について審議する議会の決算特別委員会(役場議場・蒲生)

Series 1

今なぜ、住民自治組織が 必要なのか。

シリーズ「まちづくりスクエア」では、地方分権が進む中、全国的に注目を集めている「住民自治組織によるまちづくり」について考えます。今回は、住民自治組織によるまちづくりの目的や意義、必要性などをみていきます。

集落を守り、維持していくために

過疎化、少子高齢化が進む今の地域社会。これまで地域を支えてきた基幹産業である農林業をはじめ、さまざまな地域活動において担い手が不足し、地域の活力は減退傾向にあります。また、人びとの就業がサラリーマン化したことや、生活スタイル、価値観の変化などによって、農耕社会の中で築かれてきた従来の集落機能や仕組みが崩れつつあり、その維持が困難になってきています。

このような状況の中、集落において

は、運営体制の見直しや従来の仕組みの改善を図るなどの努力が重ねられています。例えば組の再編や役員体制の見直し、年間行事の簡素化などです。

しかし、こうした簡素化や効率化を図っても、過疎化、少子高齢化が著しい集落においては、草刈りや道づくり、河川の清掃などの共同作業が、ひとつの集落の力では維持できなくなっています。

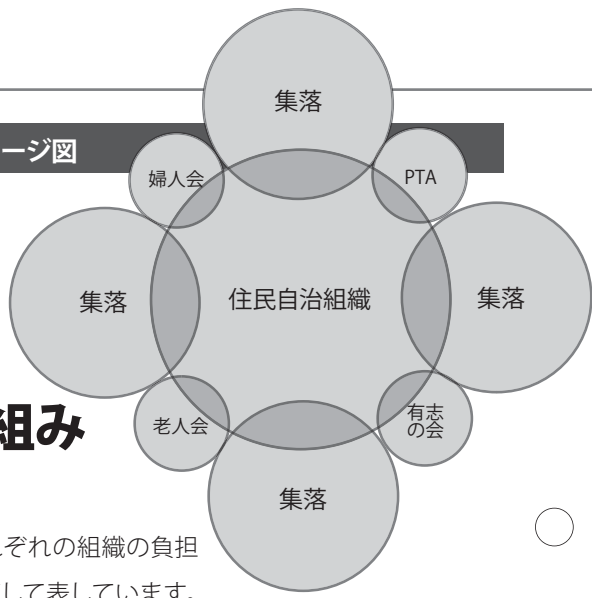
この厳しい現実を踏まえ、将来にわたって集落を維持し、自分たちが住んでいる地域を守っていくためのひとつの方策が「住民自治組織によるまち

づくり」、すなわち、諸活動を広域的な連携で負担しあう共助の仕組みづくり(左上の図)です。

人材、連携で地域力を高めるために

それでは、人口や後継者の面で、まだ危機的状況にない地域では、住民自治組織は必要ないのかというところではありません。住民自治組織の目的・意義は、先に述べた集落の機能をただ守るためではなく、防犯、防災、農地保全、環境美化、高齢者福祉活動など時代とともに多様化・複

住民自治組織イメージ図



広域的な連携による共助の仕組み

図は地域内のそれぞれの組織の負担割合を円でイメージして表しています。

中央に「住民自治組織」の円を描くことで、重なり合う部分ができます。この部分は住民自治組織が担う部分であり、重なり合う部分を大きくすることで、集落など各組織の負担を軽減するというのが、住民自治組織が目指す「広域的な連携による共助の仕組み」です。

例えば、草刈りや道づくり、休耕田対策などを広域的な連携で人材を集めて行うことで、その分、各集落の負担を軽減していこうというものです。

雑化する地域課題を解決し、自分たちの住んでいる地域を住み良い地域にしていくことにもあります。すなわち、住民自治組織という、従来の集落の枠を超えた広域的な枠組みの中で、多様な人材の参画と互いが連携できる仕組みを築き、そこから生まれる新しい力をさまざまな地域課題の解決や地域の活性化に生かしていくことに、住民自治組織によるまちづくりの意義があるのです。



本年3月に策定した「住民自治組織によるまちづくり基本指針」

です。基本理念を「元気な人、元気な地域、躍動するまちづくり」として、「自主・自立」「個性化」「一体化」「地域力」「協働」という住民自治組織によるまちづくりの五つの目的を定めています。このほか、組織の役割や範囲(区域)などのあり方、町の推進体制なども定めています。

Column まちづくりメモ

全職員を対象に研修を実施

町はこのほど、職員の意識改革や、「協働」「住民自治組織によるまちづくり」への理解を深めることを目的として、全職員を対象に職員研修を行いました。

研修は、前期(7月)、後期(8月)の2回実施。前期は「協働のまちづくり」、後期は「住民自治組織によるまちづくり」をテーマに、6人のまちづくり推進担当が説明やグループワークの進行を行いました。

職員は、グループワークを通じて、日常業務や地域での課題などを振り返りながら「協働」に対する認識や「住民自治組織によるまちづくり」への理解を深めました。

受講後の職員の感想の中には、「町民と行政が押し付けあうのではなく、互いが中間点を見出し『協働』していくことが重要」や、「一住民である職員が地域の中で、『緑の下の力持ち』的な働きをしていくことが大切」などの意見がありました。



職員は、グループワークで意見を交わし、「協働のまちづくり」と「住民自治組織」について理解を深めました。(町中央公民館、蒲生)

Topics

地域と行政との「協働の羅針盤」

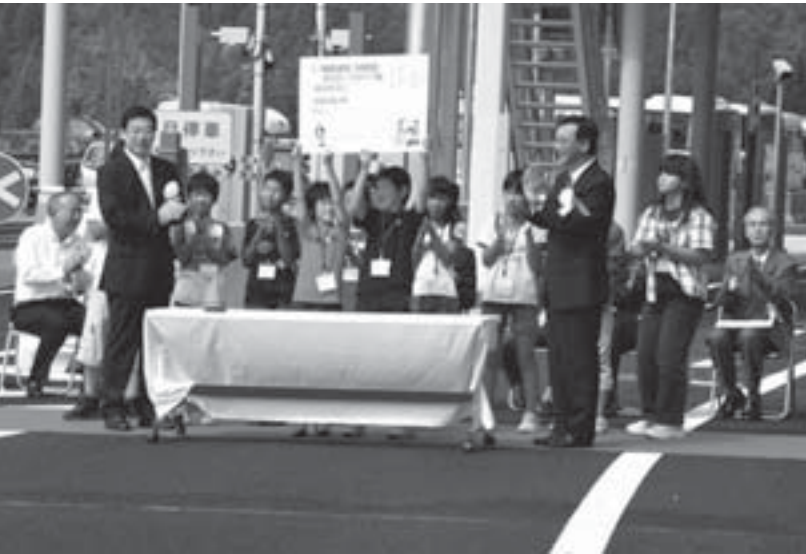
住民自治組織によるまちづくり基本指針

地域と行政との協働のまちづくりを目指し、町は本年三月、「住民自治組織によるまちづくり基本指針」を策定しました。

同指針は、区長会や議会の代表者、公募の町民など十五人でつくる検討委員会平成十八年十一月発足が、約一年かけて住民自治による地域づくりのあり方や、その仕組みを研究・検討し、まとめた報告書に基づいて策定したもので



9月4日に開いた「既存の住民自治組織によるまちづくり懇談会」町内にすでに5つある組織(瑞穂4、和知1)の役員が懇談しました。(瑞穂支所大会議室、橋爪)

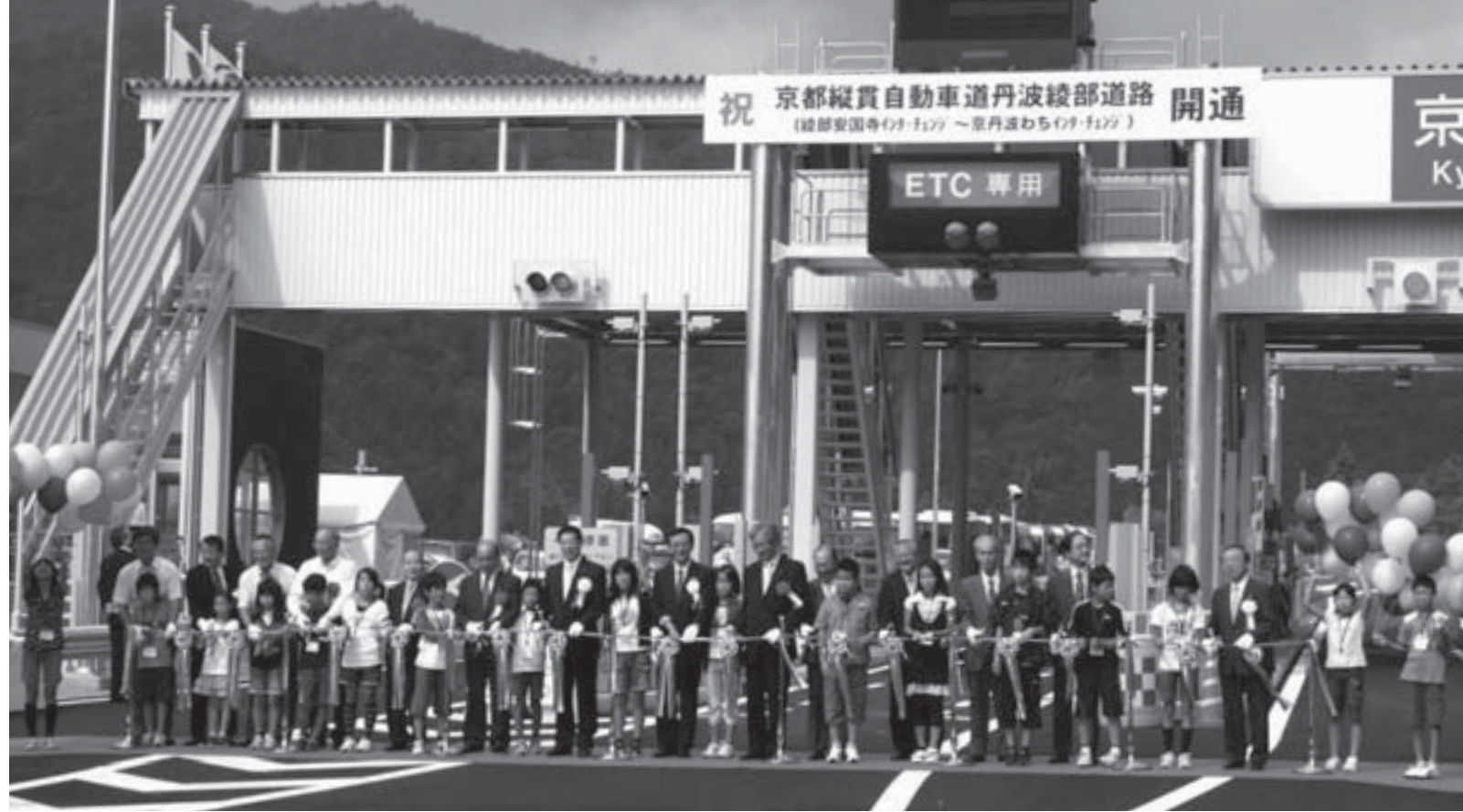


山田知事と谷垣大臣が署名したメッセージボードを披露する和知小学校の児童

京都縦貫道・丹波綾部道路(綾部安国寺IC—京丹波わちIC)の開通式が九月十三日、山田啓二知事や地元住民ら約二百五十人が参加する中、京丹波わちIC(才原)で開催されました。

式典で山田知事は、「今回の開通により京都府域全体の活性化につながることを期待する。道路整備の財源については厳しい議論が展開されているが、『真に必要な道路』として、平成二十六年度の全線開通を目指したい」と式辞を披露。その後、主催者として谷垣一国土交通大臣が、「京都縦貫道は産業や経済の発展を支援する道路として期待が寄せられている。府内の活性化のためにも、

京都縦貫道の開通を記念して「開通式」を開催



テープカットを行う関係者と児童

地域活性化への架け橋—京都縦貫道・丹波綾部道路

綾部安国寺IC ↔ 京丹波わちIC

が開通

京都府内の北部地域と南部地域を結ぶ「京都縦貫自動車道(京都縦貫道)」。今回、綾部安国寺インターチェンジ(IC、綾部市安国寺町)—京丹波わちIC(才原)までの7.7キロメートルが開通したことを記念して、9月7日に開通イベント、13日に開通式が開催されました。



道路の完成を祝って式辞を述べる山田知事



パレードに参加する地元のみなさん

全線開通に向けてみなさんと一緒に努力していきたい」とあいさつされました。

式典終了後に行われたテープカットには、山田知事や関係者らとともに地元小学校の児童が参加。司会者の合図でテープカットが行われると、児童らはそれに合わせて、手に持ったエコ風船を空に放ちました。

テープカットの後、和知小学校、東八田・東綾小学校(綾部市)の児童が作成したメッセージボードが披露され、それぞれに山田知事と谷垣大臣が自筆で署名。和知小学校のボードには、「買い物に行くのに早く行けるようになってよかった。遠いところに行くのに便利になってよかった」と、児童らの思いが書かれていました。

その後、関係者と児童の記念撮影や和知太鼓保存会による祝い太鼓の披露、そして式の最後には、参加者らが車に乗車して綾部安国寺ICまでをパレードしました。また、同日の午後三時には一般供用が開始されました。

整備が進む 京都縦貫道

京都縦貫道は、府内の一体的な発展に資することを目的に、久御山町から宮津市までの全長約百キロメートルを結ぶ高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備が進められています。

この道路は、京都第二外環状道路(久御山IC—沓掛IC間、十五・七キロメートル)、京都丹波道路(沓掛IC—丹波IC間、三十一・三キロメートル)、丹波綾部道路(丹波IC—綾部ジャンクション(JCT)間、二十九・二キロメートル)、綾部宮津道路(綾部JCT—宮津天橋立IC間、二十三・四キロメートル)の四事業名で整備が行われており、平成二十六年度の全線開通に向けて工事が進められています。

今回開通した区間は、橋やトンネルを含めて全長七・七キロメートルで、設計速度八十キロの四車線(暫定二車線供用)道路。この道路を利用することで、一般国道二七号よりも約十五分間短縮され、京都市—宮津市間の所要時間も約二時間から約一時間四十五分となります。

また、京丹波わちICにはETC専用レーンが整備されており、宮津天橋立IC間の利用時に、「ETC通勤時間帯割引」を受けられることができます。

※割引対象となるのは、午前七時—九時、午後五時—七時までの時間帯に、各ICのETC専用レーンを通じた場合で、利用した区間の通行料金(左表)が二十%割引されます。

京丹波わちICからの通行料金表

区 間 名	料 金 (円)					距離 (km)	
	軽自動車 など	普通車	中型車	大型車	特大車		
京丹波わち	～綾部安国寺	200	250	300	400	700	7.7
	～舞鶴大江	500	650	800	1,050	1,800	22.4
	～宮津天橋立	800	1,000	1,200	1,650	2,750	33.7



周りの景色を眺めながら、ゆっくりと歩く参加者

千五百人が参加した 開通前の高速道路を歩く 「風の道」ウォーキング

九月七日、京都縦貫道の開通イベント「開通前の高速道路を歩いてみよう『風の道』ウォーキング」が、京丹波わちICで行われ、町内外から約千五百人が参加しました。本町と綾部市が主催するこの催しは、京都縦貫道の開通を記念して、地元のみならずへのお礼や開通のPRを目的に実施。松原町長が開会あいさつを述べた後、四方八州男綾部市長がウォーキング開始を知らせる号砲を鳴らすと、参加者は一斉に出発地点の料金所から歩き出しました。

ウォーキングコースは、同IC―乙味川橋までの往復五キロメートル。参加者は、初めて見る周りの景色や、開通後にはゆっくりと見ることができない乙味川橋から眺める田園風景などを楽しみながら、新しく整備された道路を一步一歩進んでいました。

また、同IC横の広場に設けられた「にぎわいテント村」では、高速道路管理用車両(除雪車など)や紹介パネルの展示、京都縦貫道が全線開通した時に送られる「丹波綾部道路タイムカプセル(未来の自分に宛てた手紙)」の実施、わちふれあい朝市の会による地元新鮮野菜市などが用意され、歩き終えた参加者らを楽しませていました。



未来の自分に宛てた手紙を書いて投函する参加者



地元で採れた新鮮な農産物を販売するわちふれあい朝市の会



オープニングセレモニーにおいて、開会のあいさつを述べる松原町長



5キロメートルを歩き終えてゴールする参加者



乙味川橋から眺める田園風景



この日しか体験できない、高速道路のウォーキングを楽しむ参加者

健診結果の生かし方

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は瑞穂病院の内科医師 林靖彦先生。みなさんが受診されている健診結果の生かし方についてのお話です。

毎年、住民健診が行われ、結果返しの後、多くの方がその結果を持って病院で受診されますが、いくつかの問題点があります。

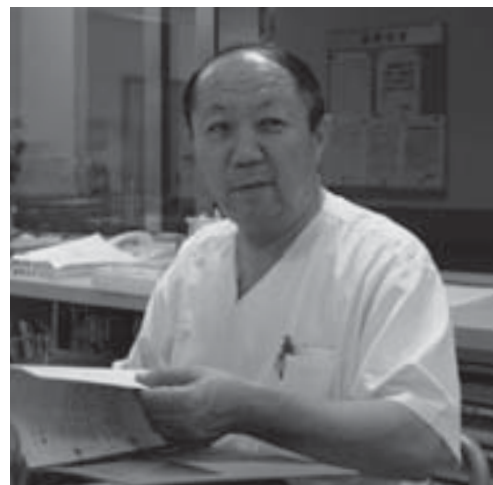
健診結果で驚かないで

一番多いのは、「あなたの検査値に問題がある」と指摘されて、病気と思いついて受診されることです。異常と指摘された方はびっくりされると思いますが、多くの場合は正常範囲か問題がない状況です。

これは検査機関の検査項目に対する正常範囲がかなり狭く設定されていることや、数値はコンピュータ処理のため、少しでもたえ〇・〇二でもはずれていたら異常値として表記されることなどが原因と思われる。

医療機関で受診する時は、これまでの健診結果を持参して

自分の検査値に病的な意味があるかどうかは、その時だけでなく、以前の数値の変化も大事ですので、健診結果を持って受診される時は、今までの健診結果や健康手帳なども持参し、医師の話をお聞きください。



内科医師 林靖彦先生(瑞穂病院)

受診に関しては、広報京丹波お知らせ版に「町立医療施設の一週間の診療体制」が掲載されていますので、ご参照いただき、身近な医療機関として、お気軽にご相談ください。

検査値に問題があれば必ず医療機関で受診を

健診で「問題がある」と指摘されても、医療機関で受診されない方がいます。健診は、病気の早期発見・早期治療を目的としていますので、自分自身で判断せずに必ず医療機関で受診してください。

また、体の変化を知ることが病気の予防につながるのです。毎年、健診を受診しましょう。

瑞穂病院では、本年四月から毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

(電話) 86-10220

Dr's Message

いきいき健康術 第14回

源氏物語を後世に伝えるために

源氏物語千年紀講演会

源氏物語千年紀講演会(京丹波村おこしふる里ネットワーク・京丹波町文化協会主催)が八月三十一日、道の駅「和」伝統芸能常設館で開催され、町内外から約百八十人が参加しました。

この催しは、源氏物語の存在が記録されてから今年で千年を迎えることを記念して、源氏物語が宿す日本文化の美と思想を後世に伝えることを目的に実施。講演会では、和知邦楽同好会による「夕顔」の演奏や、神心流吟と舞教室による「静御前」の吟詠・詩舞が披露され、満席となった会場のみなさんを楽しませました。

また、愛知教育大学名誉教授 文学博士・井爪康之さん(西河内)が「紫式部を偲んで」をテーマに講演。井爪さんは、

現在まで多くの方に愛される源氏物語の魅力伝えるために、文章内に込められた紫式部の想いや夢などを解説し、参加者に資料を使ってわかりやすく話されました。



資料を使ってわかりやすく講演される井爪さん(道の駅「和」伝統芸能常設館・坂原)



源氏に愛された女性を題材にした「夕顔」を演奏する和知邦楽同好会のみなさん

既存の地域振興会が意見交換

住民自治組織によるまちづくり懇談会

住民自治組織によるまちづくり懇談会が九月四日、各地域振興会役員ら二十五人が出席する中、瑞穂支所で開催しました。

懇談会は、既存の地域振興会の連携強化と情報交換などを目的に実施。会議では、昨年度に策定した住民自治組織によるまちづくり基本指針や先進地の事例報告、町内の現状をまちづくり推進担当者が説明した後、各地域振興

会のみなさんから取り組み状況などが報告されました。

また、意見交換会では、「住民自治組織によるまちづくりを町民に伝えていく必要がある」「行政主導ではなく、地域の人たちの『やる気』をいかに引き出すかが大切ではないか」などの意見が出されました。



懇談会であいさつをする松原町長(瑞穂支所・和田)

楽しみながらグラウンドの草引きを

第三回北部ナイターであそぼ会

京丹波町北部振興会主催の「第三回北部ナイター」であそぼ会が八月三十一日、地元住民ら約百三十人が参加する中、下栗野地内の和知北部コミュニティー広場で開催されました。

このイベントは、グラウンド内の草引きや夕食、グラウンドゴルフなどのスポーツを楽しむことで、子どもから高齢者までが親交を深めることを目的に毎年実施。同会会長の藤田昌啓さん(西河内)が「普段利用する施設で、自分たちでできることは行い、夏の夜のひとときをみんなで楽しく過ごしましょう」とあいさつした後、参加者らはグラウンドに横一列に並

んで草引きに励みました。

同会では、楽しみながら草引きをするための工夫として、一時間の制限時間内に引いた草の量を計量し、上位三位までに景品を贈呈することを企画。くわなどの道具を使って一生懸命に草引きをした結果、今年は十七・四キログラムの記録が一番となりました。

その後、参加者は、用意された焼きそばやカレーを食べながら交流を深めるとともに、きれいになったグラウンドでグラウンドゴルフを競技したり、隣接する体育館で卓球などをして楽しみました。



横一列に並んで目の前の草を引いていく参加者(和知北部コミュニティー広場・下栗野)

人との出会いや会話が人生をかえる

子育て講演会

子育て講演会(京丹波町青少年育成協会・京丹波町PTA連絡協議会主催)が八月三十日、わちふれあいセンターで開催され、五十六人が参加しました。

同講演会は、いじめや非行にはいる子どもたちの背景や社会の問題点を知ること、地域全体で子どもたちを守り育てることを目的に実施。講師の具志アデルソン飛雄馬さんは、「だから生きるんだ」「元暴走族を立ち直らせたものとは」をテーマに、これまでの人生経験を踏まえて講演されました。具志さんは、日系ブラジル人で国籍や

名前が違うことから少年時代にいじめられ、そこから抜け出すために暴走族に入った経験を振り返りながら、「子どもたちが同じ過ちを繰り返さないために、学校や家庭で人権の大切さを教えてほしい」と参加者に話しました。

また、多くの人との出会いや会話、家庭を築いたことにより自分自身の気持ちが変わっていったことも話され、「出会いを大切に、時には一言で人生が変わる」「世間の評価より自分を信じる」など、これまでの心に残った言葉をスライドを通じて参加者に伝えました。



これまでの人生経験を踏まえて講演される具志さん(和知ふれあいセンター・本庄)

子育てで大切なのは「褒める」気持ち

きらりセミナーⅡ

町と京丹波きらりネットワークの会が主催する「きらりセミナーⅡ」(京丹波町男女共同参画講座が九月二日、「KYOのあけぼの大学」地域講座として和知ふれあいセンターで開催され、六十九人が参加しました。

今回の講座では、NPO法人女性と子どものエンパワメント関西の事務局長・井山美さんが、「叩かず 甘やかさず 子育てを楽しむ方法」をテーマに講演。井山さんは、「しつけと虐待はまったく違うし、叩かれながら育った子どもたちは愛情を知らずに大人になってしまふ。しつけの基本は、できるまで何度でも繰り返して話すことなので、叩くことをしつけないでほしい。また、できないので怒るのではなく、少しでもできるようにになったところを見つけて『褒める』気持ちで、子育てには大切」と話されました。

今後は、十一月二十五日にドメスティック・バイオレンスをテーマにした講座を予定しています。



講師の話しを聞く参加者(和知ふれあいセンター・本庄)

百歳の長寿をお祝いして

敬老祝賀訪問

九月十八日、松原町長と京都府南丹保健所・横田昇平所長が、百歳の長寿をお祝いする「敬老祝賀訪問」を行いました。

この事業は、本年度に百歳となる町内在住のみなさんをお祝いするために、松原町長らがそれぞれの自宅を訪問して、祝品などを贈呈。本町では、山内八重子さん(蒲生)をはじめ五名の方が、今年度百歳を迎えられます。

同訪問で松原町長は、「これからも元気で長生きしてください」と百歳を迎えるみなさんに声をかけた後、祝品を手渡しました。

また、横田所長からは、京都府知事の祝状と記念品の贈呈、内閣総理大臣からの祝状と記念品の伝達が行われました。



百歳を迎える山内さんとお祝いに訪れた松原町長

わたしたちの町

人口	17,235(-14)
男	8,167(-7)
女	9,068(-7)
世帯数	6,495(+5)
10月1日現在/()は前月比	

毎日更新をされ、常に新しい情報をお知らせしている
竹野小学校のホームページ
(http://www.town.kyotamba.kyoto.jp/takeno-es/)



竹野小学校のホームページが京都府代表に決定

J・KIDS大賞二〇〇八

竹野小学校のホームページが「J・KIDS大賞二〇〇八」(同実行委員会主催)の都道府県等代表校に選ばれ、九月十六日に同校で表彰状の贈呈式が行われました。

同大賞は、インターネット上で公開されている小学校のホームページを



表彰状を受け取る大東校長(竹野小学校・高岡)

対象に、わかりやすさや更新頻度、学校情報の公開状況などの客観的基準により、選考ボランティア約千人が審査を実施。今年は一万八千二百四十八校の中から、都道府県等代表校五十二校(都道府県一位、特別推薦など)と都道府県最優秀校約四百校(都道府県二十一位など)を選考され、同校が京都府の代表校に選ばれました。

贈呈式では、大東均校長が、全校児童の前で同実行委員会事務局の小泉さん(損保ジャパン京都支店長)から表彰状を受け取り、「ホームページによって竹野小学校のことを世界中の人が見ています。『若竹つ子』として元気に育ってください」と児童たちに話しました。

なお、十月中旬には全国大会の選考が行われ、同大賞と文部科学大臣賞、総務大臣賞、経済産業大臣賞などが決定します。

毎月一日は「あいさつ運動の日」

京丹波町青少年育成協会が「あいさつ運動」を実施

九月一日、京丹波町青少年育成協会の委員らが、各小中学校前や通学路で「あいさつ運動」を実施しました。

この運動は、大人から小中学生に積極的に声をかけることで、地域とのつながりや、安心・安全な環境づくりを努めることを目的に実施。同協会で、毎月一日を「あいさつ運動の日」と定め、各集落の青少年育成委員と協

力した取り組みを展開されています。

夏休みが終わって初登校日となる九月一日。各小中学校や通学路に集まった委員のみならず、「おはよう」と声をかけると、小中学生からは「おはようございます」と笑顔で元気よく返事をしていました。

また、同協会は、「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンに掲げ、夏祭りでの街頭指導や子育て講演会の開催なども行っています。



笑顔であいさつを交わし、学校へ向かう児童(和知小学校・本庄)

質美地域の新たな活性化拠点「四季の里」

旧質美保育所利活用開始

九月六日、旧質美保育所を利活用した「四季の里」の開始式が、同所跡地で行われ、地元住民ら二十一人が参加しました。

旧質美保育所が閉園後、質美地域では残された施設などの活用方法を検討するために、昨年十一月に「質美保育所跡地利活用検討委員会」を設置。これまでに会議や現地踏査などで利活用方法を検討されてきた結果、質美地域の活性化の拠点とすることが決定されました。

開始式では、四十二名の応募の中から選ばれた新たな施設名称「四季の里」が披露され、関係者らが序幕を実施。その後、質美地域振興協議会長の三好久男さん(質美)がこの四季の里を多くの方々に活用いただき、質美の人と地域がますます元気にな



新たな施設名称「四季の里」の除幕を行う関係者(四季の里・質美)

ることを祈念します」とあいさつし、参加者らとともに新たな活性化拠点の開始を祝いました。

なお、四季の里は今後、質美地域農村活性化委員会と質美地域農場づくり協議会、総合武道・技心館が年間を通して利用されるとともに、地元のイベントなどの活用も見込まれています。

編集後記

月日が経つのは早いもので、10月11日で京丹波町発足から3年目を迎えました。

これまでの出来事を振り返ってみようと考えた時、何気なく手にしたのが「広報京丹波」。その時々々の情報をお知らせする広報紙が、年数が経つと歴史を記す大切な存在になることに改めて気がきました。

広報担当になって半年。編集子の広報を見ることで、京丹波町の歴史を振り返ってもらえるように、初心に戻って「わかりやすい広報紙づくり」に努めたいと思います。(K)